SiP 本プロジェクトは、北海道大学が内閣府/JSTの委託を受けて実施するものです（SIP「ポストコロナ時代の学び方・働き方を実現するプラットフォームの構築」）

北海道大学デジタルリスキリングプログラム（DREP）

- 社会人のためのデジタルリスキリングプログラム -

DREPのゴール

- **少子高齢化社会がもたらす労働力減少が間近に迫っており**、デジタル技術の導入・活用による業務の効率化・新しいモデルの導入は待ったなしの状況となりつつありますが、デジタル技術の導入・活用により職場を変えていくためには、**社員・職員の皆さんの「デジタルに関する理解」**が欠かせません
- また、**これから職場の戦力となるＺ世代（デジタルネイティブ）**がその”デジタル力”を存分に発揮する為にも、**管理職や先輩社員・職員による「デジタルに関する理解」**と協力が欠かせません
- DREPは職場における「デジタルに関する理解」の醸成、即ち**「デジタルスキルレベルの底上げ」**の実現を目指して開発されたオンライン研修プログラムです / 加えて、オンライン研修を修了した希望者に自組織の課題解決演習を提供し、**「デジタル中核人材の発掘・育成」**も目指します

＜ 国立社会保障・人口問題研究所　人口ピラミッド　**2025年**　推計 (単位:万人) ＞

＜ 日本ディープラーニング協会　“組織のDX推進力と全社員デジタル人材化の必要性” より ＞

＜文部科学省HP 数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度”より＞

- DREPを受講することで、文科省の高校生～大学生向けカリキュラムである「情報」「リテラシーレベル」「応用基礎レベル」の大半をカバーすることが可能です
- 「デジタル」を体系的・包括的に理解することによりZ世代との円滑なコミュニケーションが期待できます
- 現役世代からZ世代に「業務の知見・ノウハウ」を伝えることでZ世代が組織へのデジタルの導入を加速する循環が期待できます

DREPの研修メニュー

- 5ステージ・6コースの研修メニューをご用意しています
  - Stage BからStage 3を順番に受講頂くことで、「デジタル」に関して体系的に学んで頂けます (Stage Bは2025/10/8~)
  - Stage 4では職場の課題解決に挑戦する皆様をサポートします

DREPの研修メニュー

Stage B~3は「数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアム」他のカリキュラムに基づいて作成されており、デジタルに関して包括的に理解し、Z世代が高校～大学で学習する「情報」と同等の内容を学習することができます / またオンライン・オンデマンドで単元毎に受講できますので、すきま時間に効率的に学習することが可能です（ https://drep.jp からお申込み・受講が可能です ）

https://drep.jp

＜Stage B: デジタルベーシックコース＞（2025/10/8～ 新設）

高校の「情報I」に準拠した内容です

- 「情報で問題を解決する」「情報を伝える」「コンピュータを活用する」「データを活用する」について学びます

＜ テキストの例 ＞

出典：東京書籍 新編情報I

＜Stage 1: デジタルリテラシーコース＞

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラム（リテラシーレベル）に準拠した内容です

- 社会におけるデータ・AI活用について学びます

＜ テキストの例 ＞

＜Stage2: データ活用コース＞

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラム（応用基礎レベル）に準拠した内容です

- データ活用（データの収集・分析・解析・可視化）について学びます
- オープンデータとBIツールを使用して演習を行います
  下記の演習課題から選択して受講
  札幌市感染症レポート/札幌市人口動態レポート/道路橋損傷レポート/米の生産レポート

＜ 札幌市人口動態レポートの例 ＞

＜Stage3: AIコース＞

数理・データサイエンス・AI教育強化拠点コンソーシアムのカリキュラム（応用基礎レベル）に準拠した内容です

- AIの基礎について学びます
- DREP GPUにアクセスし下記のAIに関する演習を行います
  画像分類AI / 物体検出AI / セグメンテーションAI
  姿勢推定AI / 属性認識AI / 生成AI

＜ 物体検出AI / 一般向けの例 ＞

Stage4は、Stage1~3を修了した「自組織の課題解決に取組む受講者グループ」をサポートする演習です
課題の難易度に合わせて2つのコースをご用意しています

＜Stage4: 地域課題解決コース(1)＞

既存技術・既存サービスの組み合わせにより解決可能な課題を対象とします。
（北大大学院生がサポート）

＜Stage4: 地域課題解決コース(2)＞

課題解決のために新規技術開発が必要な課題を対象とします。
（北大教員がサポート）

＜ 地域課題解決コース(2)は北大D-REDにて開催 ＞

＜ DREP修了証 ＞

修了したコースに応じて修了証を発行いたします

DREPのスケジュール

- PDCAサイクルを回しながら進め、参画組織により設立したコンソーシアムへ引き継ぐことで2028年度以降の持続的運用を目指します

	2023年度	2024年度	2025年度	2026年度	2027年度
調査			受講団体候補（業務・職種・デジタルリテラシー） / 研修内容・受講方法要望等		
コンテンツ開発				コンテンツの 最新化管理	
研修	Phase1	Phase2 2024/10/1～	Phase3 2025/10/8～	Phase4	Phase5
研修実施方法確立	オンデマンド受講システム・配信環境整備 オフライン研修環境整備 / スキル認定制度構築				
セミナー・シンポジウム	セミナー シンポジウム				コンソーシアム

2025/10/8～ Phase3研修に移行します
StageBを追加するなど、受講生の皆様からのフィードバックを反映しました

プロジェクト終了後も研修の継続を目指す

研究開発責任者

国立大学法人 北海道大学
副学長（IR / D-RED /数理データサイエンス）
総合イノベーション創発機構 データ駆動型融合研究創発拠点 (D-RED)長 / 数理・データサイエンス教育研究センター長
長谷山美紀

お問い合わせ先

国立大学法人 北海道大学
総合イノベーション創発機構 データ駆動型融合研究創発拠点 (D-RED) SIP事業推進室
〒060-0813 札幌市北区北13条西10丁目
E-mail :d-red_sip@research.hokudai.ac.jp
drep_kenshu@dred.hokudai.ac.jp（DREP受講申請はこちら）

D-RED